

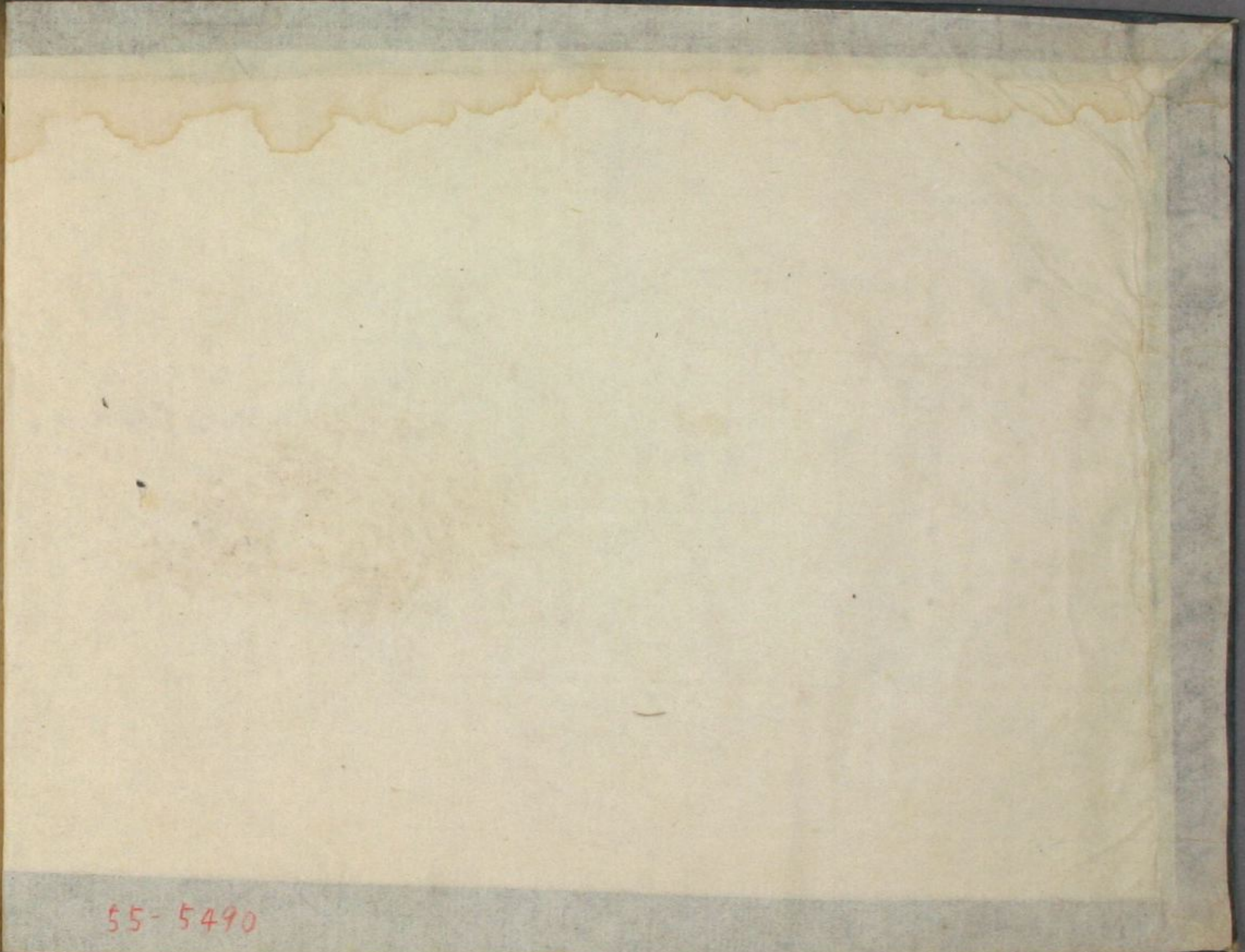


寶條公御詠

七五回

特別
~ 2
4867
24(2)





55-5490

定

山家松
巻のりし
山朝の
巻のりし

天兒屋

天學主

實條公卿款

寛永九年十月十日 墨三十一 寺 迎母の
事世祝
おのまれのくの時つうての方とて
月日くして世に照してん



寛永九年宗

鶏鼓歌

安徳

ものをもと身に吸ふれは
年ふらぬニとせのま

正七梅萬春友

久方の神代のまきりまの
花よしのれのまのりふ
日十九水樹多桂遊

みらりらむのふ本ふらと
うはは行くふ世しるあふ
らトをぬねのまらつらと
けりトてあ世の氣とくし

同廿四 榎 以 爲 底

松

常緑松 山 上 へ 植 け ば 枝 の 末 まで びて

ま ぎ と し げ ら 木 李 の ま ぎ と

二月廿六 榎 以 爲 日
春鳥

ま ぎ と し げ ら 木 李 の ま ぎ と

ま ぎ と し げ ら 木 李 の ま ぎ と

日三首
春木

ま ぎ と し げ ら 木 李 の ま ぎ と

ま ぎ と し げ ら 木 李 の ま ぎ と

七月廿五 院 以 爲 會 聖 廟 以 爲 日
夏海

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

秋三首

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

日廿四 榎 以 爲 日
夏海

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

日廿六 榎 以 爲 會
行路秋

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

日廿七 榎 以 爲 日
秋三首

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

あ り 木 日 と 木 日 と 木 日 と 木 日 と

月十七日 杜木 菊 是依是取ト三奈取ト地のりいニ
日 秋 二季のガリニヨリア一リし題下
日 秋 日 秋 日 秋

秋ようれいいしと堅くせん
あの日れ日きるるあひしほ

日 寄日恋

あゝとくもとく花とむらりし

戸くくさぬ花の月の氣式

日 大ニ後 新秋田

あはれし涙のしと田畑凡し
都とくよあけく秋はたなわ

日 寄日恋

はあのみさよあやあはれと

いけしおのあよらと

日 女六 井 井 井

あゝあせとあらしの清風

あゝあせとあらしの清風

九月八日 杜木 菊 是依是取ト三奈取ト地のりいニ

あゝあせとあらしの清風

あゝあせとあらしの清風

あゝあせとあらしの清風

あゝあせとあらしの清風

あゝあせとあらしの清風

あゝあせとあらしの清風

あゝあせとあらしの清風

あゝあせとあらしの清風

良怒

病さういふ長もさうさうゆめ病
あつたさういふ病もさういふ病の
いさげいさげのそとに書して
かたけいさげいさげいさげ

十月十日ありけり短尺

短尺し上三冬京御書
やうしん懺悔すういさげいさげいさげ
いさげいさげいさげいさげ

はまふよよいさげいさげいさげ
けのけいさげいさげいさげ

上はこの紙初をいさげいさげ
いさげいさげいさげいさげ
いさげいさげいさげいさげ
いさげいさげいさげいさげ

短尺のよ

いさげいさげいさげいさげ
いさげいさげいさげいさげ

三月廿五日
早苗

いさげいさげいさげいさげ
いさげいさげいさげいさげ

水帰日

いさげいさげいさげいさげ
いさげいさげいさげいさげ

寛永十二年

二月廿七日
水原

いさげいさげいさげいさげ
いさげいさげいさげいさげ

二月十日 院の書物
あはれはるる玉一邦

近江の歌

義の権をさしけりいかに

御の心のみやういかに

同十七日 丹波の書物

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

同廿二日 丹波の書物

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

暁

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

突記

いよ一村のしりのまゝ

紅形

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

いよ一村のしりのまゝ

まきあいの津ついでにいひいひいひい

朽しきいめ家いひいひいひい

月廿七日ある国をあつたます

いしにをのれいいひいひいひい

者とやいふいひいひいひい

いひいいひいいひい

いひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

いひいいひいいひいいひい

そとくわツツカフコシト指
わみしとくわのなれはるまひ
やなオラう始てはるまひ
赤ししすく

初まえしとくわひしとくわ
しとくわのしとくわ

テハトテモの紋
テハトテモの紋

子まはるまひとくわ
万けらるまひとくわ

分たはるまひ
海月
黄とくわとくわ

海月
懐益而

のりらるまひとくわ

二十金
右とくわとくわ

子記トテとくわ

おのりらるまひ
原新堂

あひとくわとくわ

野をゆりてとくわ

すまはるまひとくわ
寛元十三年正月

林の中へ
鶴宿松樹
書はるまひとくわ

河女日まのり

仙洞屋の如陽春布襦

冬より那良ののりひり

しけくねえきとるる

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

河女日まのり

有りて其の持事ありて

海路

今に於ては其の事ありて

十月十一日 龍山院 寺 於 十
カキヨク 懐柔 戸 門 録

神々ありて其の事ありて
是の事ありて其の事ありて
ありて其の事ありて

いづれかの事ありて其の事ありて

ありて其の事ありて

ありて其の事ありて

ありて其の事ありて

ありて其の事ありて

ありて其の事ありて

山書院の事

ありて其の事ありて

ありて其の事ありて

ありて其の事ありて

定九十二

後山會館

南添山氣

まはりのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

月廿五 葉

晴

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

世に於ては... 此の如く... 是れ上り... 一の... 二の... 三の... 四の... 五の... 六の... 七の... 八の... 九の... 十の...

卯の... 日... 月... 年... 朝... 夕... 夜... 日... 月... 年... 朝... 夕... 夜...

ついでに
おのれは
おのれは
おのれは

おのれ

おのれの
おのれの
おのれの

おのれの
おのれの
おのれの

鷹
鷹

おのれの
おのれの
おのれの

おのれの
おのれの
おのれの

